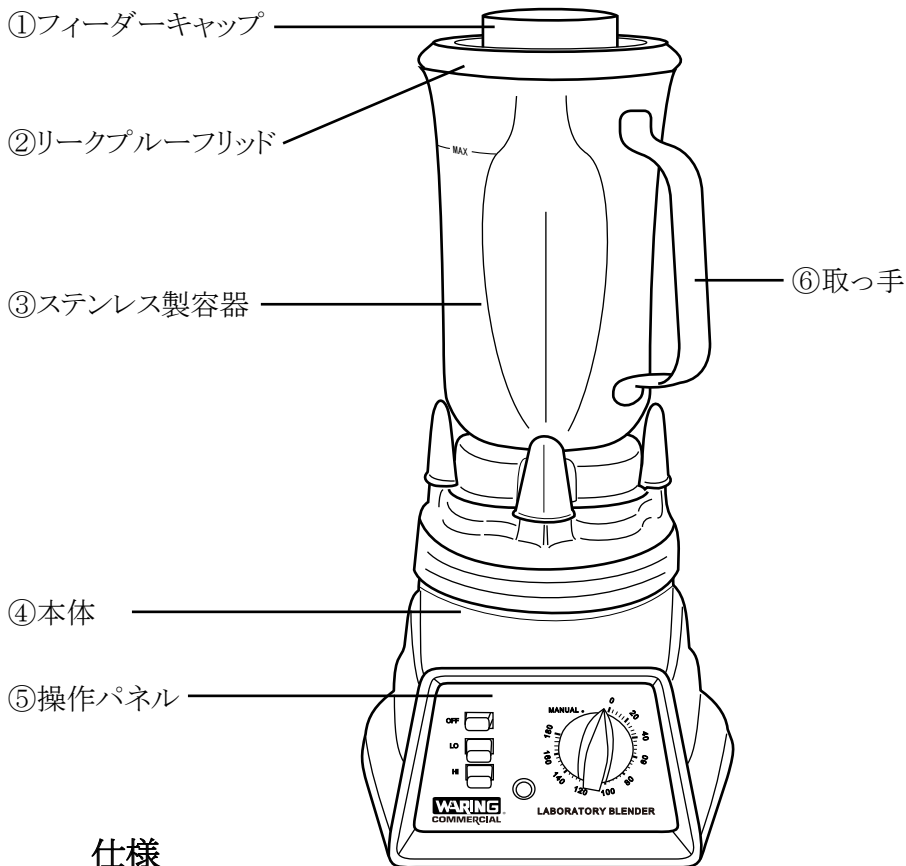
J-SPEC BLENDER

7010JS

取扱説明書

OSAKA CHEMICAL CO.,LTD.

ワーリング J-SPEC ブレンダー

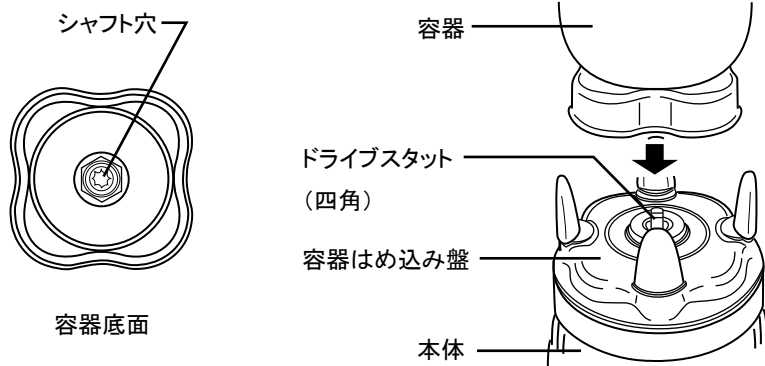
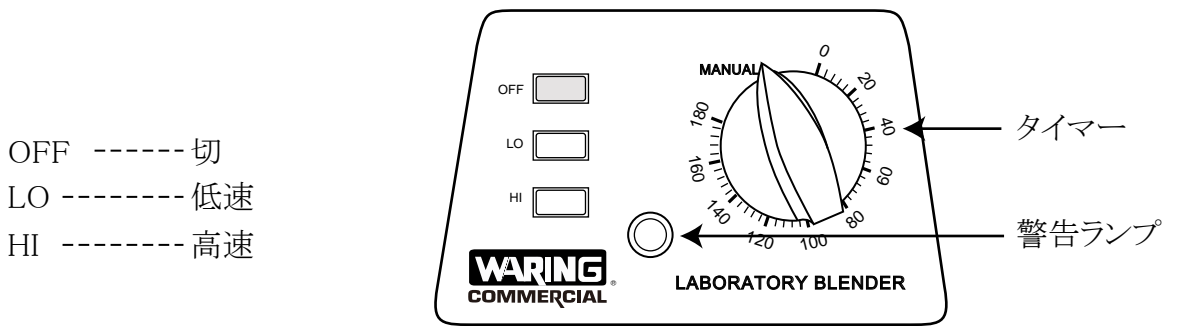
この度はワーリング J-SPEC ブレンダーをご購入いただき、 誠に有難うございました。
本機を正しく事故のないようにお使いいただく為に、 ご使用前に必ずお読み下さいますようお願い申し上げます。

仕様

型式	7010JS
電源	AC100V，50/60Hz，300W
回転数	Low・・・18,000rpm　Hi・・・22,500rpm
タイマー	180 秒 (3 分)
寸法	185mm x 205mm x 365mm(H)
重量	3.46kg
付属品	容器 1L (SUS304 製)、カッター組込み済

図 -B

本体と容器部詳細図

図 -C
操作パネル

OFF ------切
LO --------低速
HI --------高速

操作手順

◎ 先ず初めに、 図 -A より本体④の操作パネル⑤の OFF ボタン (赤色) が下に押し込まれた位置にあるかを確認して下さい。 もし、 OFF ボタンが上に上がっていたら OFF ボタン (赤色) を下に押し込んで下さい。(操作パネル　図 -C 参照)

◎ 試料を容器に入れて下さい。本機は主に液体に固形物を投入して粉砕、 攪拌するブレンダーです。液体分では最小容量は 250mL 以上でないと十分な粉砕、 攪拌が出来ません。そして最大容量は 900mL です。容器にマーキングされている [MAX] 線は最大処理量ラインを表し、 900mL の目安ラインになります。900mL 以上で機械を作動させますと試料は容器より溢れます。

◎ 固形物のみの粉砕処理では粉砕量が著しく少なくなります。 最大処理量はおよそ容器量の 3 分の 1 程度を目安にしてください。 少量の固形物粉砕には WARING 社の専用小型粉砕容器 (6 ページ参照) をご利用下さい。

◎ 熱いものは処理しないで下さい。熱いもの (65℃以上) の液体物を処理すると、 膨張した空気の影響で容器フタが外れ、 熱い液体物が噴出し、 火傷をする恐れがあります。十分に気をつけて取り扱って下さい。

◎ 容器③を本体に取り付けます。図 -A より容器の取っ手⑥を持ち、 クローバー型の容器ベースを本体の 4 本の支柱の内側にはめ込みます。 その際、 容器底面のシャフト穴が本体のドライブシャフトに真っ直ぐに入っているのを確認して下さい。容器ベースが斜めになったり、 容器が浮いた状態での運転は決してしないで下さい。(容器部詳細 図 -B 参照)

◎ 図 -A よりリークプルーフリッド② (フィーダーキャップ①セット済) を必ず取り付けて下さい。

◎ 準備が整ったらコンセントに電源コードのプラグを差し込んで下さい。(図 -D 参照)

◎ 本機を稼動させる場合、 ボタンは必ず最初は「LO」(低速) から始めて下さい。 決して「HI」(高速) から始めないで下さい。 最初から「HI」(高速) で運転するとモーターに負荷がかかり機械が大きく振動して転倒し、 機械の損傷及び怪我の原因になることがありますので十分ご注意下さい。 又、 この機械を運転中は容器の上部に手を添えて機械の安定を維持して下さい。

◎ タイマーを使用せず、 手動で操作する時はダイヤルを「MANUAL」 にセットして下さい。

◎ タイマーを使用して運転する時はダイヤルを希望の秒数に合わせてから「LO」ボタンを押下して運転して下さい。 その際 20 秒以下にセットする時は一度 20 秒以上にダイヤルを回してから、 20 秒以下にダイヤルをセットするようにして下さい。

◎ 作業が終わったら OFF ボタン (赤色) を押して運転を止めて下さい。(タイマーを使用して自動的に運転が止まった場合は警告ランプが赤色に点灯します。 OFF ボタンを押下すれば消灯します。) そして、 コンセントからプラグを外して下さい。

◎ モーターの回転が完全に止まったのを確認して容器の取っ手を持って本体から容器を外します。

◎ 本体の水洗いは絶対にしないで下さい。 ショート、 感電等、 故障の恐れがあります。

◎ 本体の清掃にはウェットティッシュのような柔らかい、 本体を傷つけないもので拭き取って下さい。

容器のお手入れ

使用後の洗滌

ワーリングブレンダーを使用された後は、 下記の手順で使用容器を洗滌して下さい。

Ⅰ. 予備洗浄（水又は温水を使って、 残った試料を洗い流す。）

Ⅱ. 洗剤洗浄（洗い流し洗浄の後、 家庭用中性洗剤を入れて機械で回転させて洗浄する。）

Ⅲ. すすぎ洗浄（水又は温水を使って、 機械を回転させて洗浄成分をすすぎ切ります。）

Ⅳ. 乾燥（排水後、 機械を 2 秒ほど回転させてカッターアセンブリを乾燥させる。）

Ⅰ. 予備洗浄

1. 本体より容器を取り外して下さい。
2. 水又は温水を流しながら、 容器内部、 容器フタを洗浄して残った試料のカスを流し切って下さい。

Ⅱ. 洗剤洗浄

1. 容器に容器容量の半分程度の水を入れ、 その中に家庭用中性洗剤を 2 ～ 3 滴入れて下さい。
2. 容器に容器フタをきっちりとセットして下さい。
3. 容器を本体にセットして、 1 分間運転してカッターを回して下さい。
4. 容器を本体から外し、 洗浄した水を捨てて、 容器を空にして下さい。

Ⅲ. すすぎ洗浄

1. 空になった洗剤洗浄済みの容器の中に、 きれいな水を容器容量の半分程度入れて下さい。
2. 容器フタを容器にセットして下さい。
3. 容器を本体にセットして、 1 分間運転して、 洗剤成分をすすぎ洗いして下さい。
4. 容器を本体から外し、 すすぎ洗いした水を捨てて、 容器内を空にして下さい。
5. 再度、 容器に水又は温水を容器の MAX ラインまで入れ、 カッターを回して
   すすぎ洗いして下さい。
6. 上記のすすぎ洗いをしても洗剤成分が残っている場合は、 流水で十分に洗い流して下さい。

Ⅳ. 乾燥

1. 排水後、 空の容器を本体にセットして下さい。
2. 2 秒程度カッターを回して、 カッターアセンブリー部分の水分を取り除いて下さい。
3. 容器、 容器フタは水分を十分に切り、 きれいな乾いた布で水気を拭き取り、 完全に
   自然乾燥させて下さい。

注意事項

◎ 機械の改造はしないで下さい。 火災、 感電、 怪我の原因になります。

◎ 電源コードや電源プラグが傷んだり、 コンセントの差込がゆるい時は、 使用しないで
下さい。 感電、 ショート、 発火の原因になります。

◎ 本体を水につけたり、 水をかける等は絶対にしないで下さい。 感電、 ショートの
原因になります。

◎ 干し椎茸の塊や根昆布等、 非常に硬いもの、 千切り大根等の繊維質の強い試料の
粉砕はしないで下さい。 破損の原因になります。

◎ ガラス製容器を使用する場合、 降下、 上昇の温度差が 40℃以上の急激な冷却や加温を
しないで下さい。 破損の原因になります。

◎ 運転作業は平らで安定したところで行って下さい。

◎ 容器の取り付け、 取り外し時は必ず電源プラグをコンセントから取り外してから
行って下さい。

◎ 試料を入れない状態での空回しは絶対にしないで下さい。

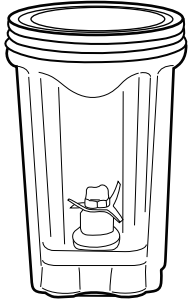
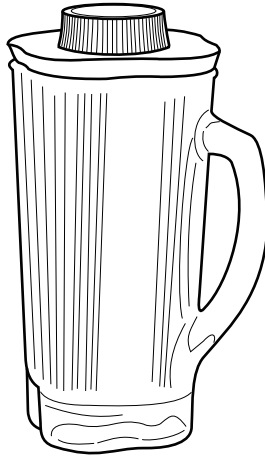
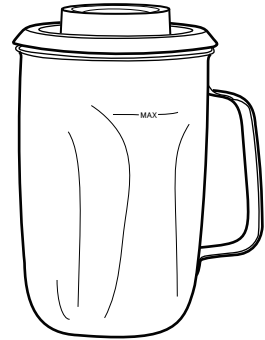
◎ 屋外では使用しないで下さい。

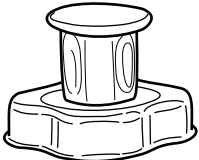
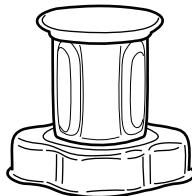
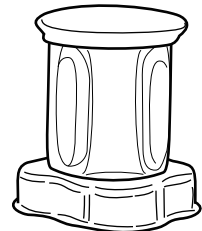
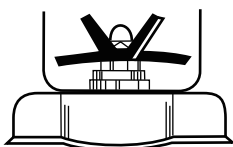
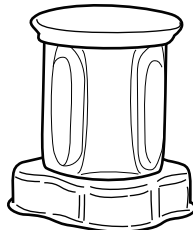
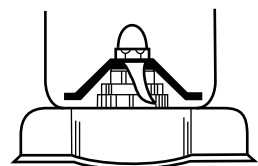
◎ 容器内のカッターは鋭利で危険です、 取扱いに十分ご注意下さい。

◎ 稼働中は容器の中に手や指、 箸、 スプーン等は絶対に入れないで下さい。

◎ 試運転する場合は容器に半分程度水を入れて行って下さい。

◎ 一回の運転は 3 分以内で行って下さい。 連続的に使用する場合は。 3 分運転すれば
暫く(5 分～ 10 分) 停止してから再度運転して下さい。

オプション交換容器

E8470
（ガラス容器）

CAC32
（ガラス容器）

CAC33
（ステンレス容器）

型番	容量	処理量	価格
E8470	500mL	30 〜 250mL	¥47,000
CAC32	1.2L	75 〜 500mL	¥16,000
CAC33	1.0L	75 〜 500mL	¥25,000

MC-1
MC-2
MC-3
MC-1 〜 3
カッター形状
SS110
SS110
カッター形状

型番	容量	処理量	価格
MC-1	50mL	12 〜 20mL	¥44,000
MC-2	120mL	37 〜 50mL	¥45,000
MC-3	260mL	50 〜 80mL	¥50,000
SS110	260mL	75g	¥57,000